

2026年度 北海道科学大学 大学院修士課程一般[前期] 入学試験問題

専攻	建築学専攻	受験番号		氏名	
科目名	専門科目（建築計画）	参考資料	一切不可		
		持込用具	一切不可		

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問1. 次の文章等が成立するように、空欄に適切な用語・数値・記号を入れなさい。(各3点：満点45点)

- 戦後の日本住宅の近代化に建築計画研究が果たした役割は大きく、その端緒は、戦中に提案された（**食寝分離**）論である。そこで生み出された方法論と理念は、戦後の住宅計画と政策の基本となった。ここから生まれた戦後の日本住宅の原型は、その後の高度経済成長に、生活の変化や住宅産業の成長を背景として（**nLDK**）と呼ばれる住宅へと変容する。
- 収益性が求められる貸オフィスビルにおいて、貸し得る面積の割合を（**レントラブル**）比と呼び、それが最大にするようにしなければならない。その比には2種類ある。一つは、延床面積に対する収益部分の床面積の割合で有効率とも呼ばれ、中規模ビルでは（**80~90※**）%程度、大規模ビルでは（**65~75※**）%程度である。もう一つは、基準階の面積に対するその階の収益部分の床面積の割合で基準階有効率とも呼ばれ、中規模・大規模ビルに関わらず（**80~90※**）%程度の確保が要求される。
- 博物館・美術館は、そこに展示される物品を通して、来場者に何らかのメッセージを伝える場所であり、それを効果的に実現するためには、展示方法や照明・音響など様々な技術的問題、来場者の（**動線**）、展示の企画や展示物の収集・保管など、解決すべき問題が数多く存在する。博物館・美術館の面積の内訳は、展示部門が（**40~50※**）%程度、教育・普及部門が（**4~8※**）%程度、収納・保管部門が（**10~15※**）%程度、調査研究部門が5%程度、管理部門が7%程度、その他が30%程度である。**※はその間の数値であれば○**
- 我が国は明治以来、富国強兵政策の一環として、国民の教育制度の整備に力を入れ、能率的な義務教育の場として学校を計画・建設してきた。昨今の教育施設(学校)における学級単位の運営方式は5つ(①~⑤)が存在する。そこで、①から⑤に対応する型(名)を選択肢(A~E)から選びなさい。
  - ①クラスルームまたはそのまわりで大部分の学習・生活活動を行う方式：（**D**）
  - ②普通教室はクラスルームで行い、特別教科を専門の設備や教材の備えた教室で行う方式：（**A**）
  - ③全教科が専門の教室をもち、生徒が時間割に従って教室を移動して授業を受ける方式：（**C**）
  - ④教科教室型で関連ある教科ごとに教室をまとめる方式：（**E**）
  - ⑤2クラス兼用の普通教室と十分な特別教室をもち、全体クラスと2分して午前と午後で普通教室と特別教室との利用を逆転させる方式：（**B**）

選択肢 A：特別教室型，B：プラトーン型，C：教科教室型，D：総合教室型，E：系列教科教室型

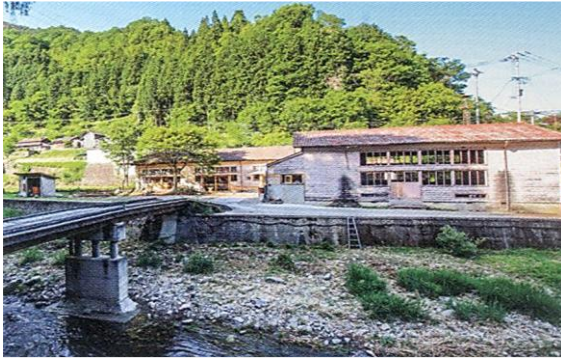
問2. 下記の各文章が、正しい場合は○、間違っている場合は×、を番号に付けなさい。(各2点：満点20点)

- 企画・設計段階の「マスタースケジュール」は、建設プロジェクトの主要な段階、関連工事、主要な目標、クリティカルパスとなる工程等をプロジェクトの必要に応じて記載したものである○
- 畳の割付けにおいて、田舎間は柱芯の間隔を基準寸法の整数倍とし、京間は柱と柱の内法寸法の整数倍とする○
- 横滑り出し窓は、常時、少し開けて換気用として使うが、窓の清掃時には、大きく開けたり、反転させたりすることができる×
- 駅舎の通路において、視覚障害者誘導用線状ブロックを、通路壁面から1m以上離して敷設した○
- 事務所の階段について、昇降のしやすさに配慮し、踏面寸法をT、蹴上げ寸法をRとした場合、 $T+2R=450\text{mm}$ 程度となるように計画した×
- 「応急仮設住宅」のうち「建設型仮設住宅」は、災害発生後に速やかに建設され、恒久的に供与されるものである×
- ショッピングセンターにおいて、モールやコート等の客用スペースは、一般に、延べ面積の10%程度である○
- 市庁舎の計画にて、利用者が各種届出や証明書の受領を円滑に行えるよう情報システムを導入し、総合窓口形式を採用した○
- 特別養護老人ホームにおいて、家庭的な空間の中で生活するために、食堂とデイルームからなる共同生活室を7室の個室とともにユニット化し、複数配置した○
- 広島市の基町団地(広島県)は、工場跡地の再開発を目的として建設されたテラスハウス型の公営住宅団地である×

問3. 下の写真は、新しい「コミュニティデザイン」を創出するために、廃校(木造)をリノベーションした施設である。下記の問いに答えよ(写真下の Keyword を参考にしなさい)。(15点・20点:満点35点)

1) この施設の特徴・特質などを論じなさい。

2) さらにコミュニティデザインを創出するにあたり、この施設をどのように改修するか(建築計画的視点)?、どのように利用させるか(利用システムの視点)?、を論じなさい。



【 Keyword : 廃校舎、木造校舎、大人と子ども、体験型、人と自然の共存、空間演出、地域の居場所、リノベ 】

※参考：新しいコミュニティデザインを生み出す空間とデザイン、PIE 発行

1)

- ・木造校舎の再活用 (木造トラスの空間の活用 (体育館)、教室もそのまま木としてリノベ)
- ・食 (たとえば地域生産者) と協力した食堂 (食育)、カフェ、雑貨販売空間は大空間の体育館を活用
- ・大自然のなかで心も体もデトックスができる、また教育につながる空間となっていること
- ・地域に根差した交流拠点、・モノと食と学の機能を有する複合施設となっていること、

など

2)

- ・民間主導とする (多様な空間を創出さ、また、利用者を呼び込む)
- ・この空間の貸し出し方法を提案している、または借りやすい方法の提案している
- ・地域居住者による維持管理や関わらせる方法を提案している
- ・宿泊以外 (たとえば、物販販売や展示) の空間をつくることを提案している
- ・空間同士のつながりや、二つの教室を一つにして大空間とするなど空間づくりを提案している
- ・グランド空間をさらなる自然との融合をさせるような提案をしている
- ・体験学習などコンテンツつくるような提案をしている

など